



現地スタッフの方々からは、研究に関するアドバイスをもらったり、中国語を教わったりして助けられた(左が筆者)

私はITPに参加する機会を得て、中国に約9カ月滞在しました。大学時代、アルバイトでお金をためてバックパックを回して5回目でした。

# 砂と暮らし 砂に学ぶ ITP だより

24

## 9カ月の中国滞在

大学時代には、中国語はおろか英語も達者ではなかった。現地の人々とのコミュニケーションには苦労しました。時々、日本の政治や歴史、経済について聞かれることもありました。何と答えていいのか分からず、もどかしさや悔しさでいっぱいになったこともありました。

それだけに、この滞在中に中国語を教えるかコミュニケーションで

きるようになり、中国を離れる時に「お前は日本の友人だ、また来いよ」と言ってもらえた時は、とてもうれしく思いました。

た。

日本と中国は過去にさまざまな歴史があります。これが、これからの未来、両国の国民が本当に理解しあえる日が来ることを確信できました。

(鳥取大学大学院農学研究科学生・窪田慎一)  
(水曜日に掲載)